

茨城県国際理解教育推進協議会  
会長 石川 哲夫 殿

## ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

学校名 茨城県立並木中等教育学校 担当教諭名 佐野 賢一

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。

### 記

実施日時	平成21年11月 7日(土) 10:30 ~ 12:30
対象学年と人数	中等第2学年 117名
派遣講師名と出身国	Mr. KABIR Mohammad Anayet [BANGLADESH] Mr. KABIR Md. Humayoun [BANGLADESH] Mr. FAYISSA Girma Etana [ETHIOPIA] Mr. ALALBILA Andrews Aguire [GHANA] Mr. NARTEY Joseph [GHANA] Ms. MZAMU Lourencia Mavis [MALAWI] Mr. ATAPATTUMUDIYANSELAGE Herathebanda [SRI LANKA] Mr. MUSOBA Andrew [UGANDA] Mr. MWANGA Eliafic Wilson [TANZANIA] Mr. NGUYEN Vu Manh [VIET NAM] Ms. PACHAWO Vimbai [ZIMBABWE]
活動の内容	1グループ10名、12個のトピックに従っての日本文化紹介を英語で行った。11名の講師の先生方がそれぞれのグループに入り、1人ひとりの英語によるプレゼンテーションと生徒からの質問のやりとりが行われた。生徒の質問に対して、講師が写真や現物を交えながら答えてくれ、生徒は日本の現状について伝え、それぞれの国についての多くの情報を得ることができた。
生徒・保護者等参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解教育について、外国の文化や風土をネイティブの言葉で直接聞く、また会話することはとても良いことと思います。生徒一人ひとりが自分でテーマを選び、発表用資料を用意するという過程は、将来的にも役に立つと思いました。(保護者)</li> <li>・一生懸命発表している姿がとてもほほえましく、やはり英語を話すのが得意な子、不得意な子がいますが、みんな頑張っていて、これからもたくさんみんなの前で発表できる機会を作ってもらえたらと思いました。(保護者)</li> <li>・グループで協力して英語のプレゼンを仕上げることができたと思います。当日は、日本と違うことがたくさんあって、それぞれの文化を尊ぶことが大切だと感じました。英語でのコミュニケーションは難しいけれど、伝わるように努力することが大切だと思いました。(生徒)</li> </ul>
先生の感想	<p>・準備の時間として、合計9時間の時間をかけた。時間をかけてプレゼンテーションの準備をしてきたので、当日はそれぞれの生徒が満足のいく発表ができていたと感じた。一度に11人の講師の先生方をお招きし、しかも学校公開日の授業として多くの参観者のいるなかでの授業ということで、緊張して発表している生徒も多く見られた。課題点としては、</p> <p>原稿を見ながら発表をしいる生徒が見られた。原稿を見ることで、声の大きさも小さくなってしまふ。</p> <p>講師の質問に適切に回答できていない生徒がいた。英語の運用能力に問題がある生徒がいた。</p> <p>という2点が上げられる。課題点はあるにせよ、生徒たちは生の英語に触れ、生き活きた活動ができていたのではないかと思います。初めて講師を招いての英語によるプレゼンテーションだったが、よかったのではないかと思います。各国の現状について生の声を聞くことができていた。</p> <p>学校の立地の利点で、JICAが近くにあるので、これからもこういった機会を多く設け、多くのふれ合いを大切にしながら生徒たちに国際理解について考えるきっかけを与えていきたいと考えている。</p>

